

令和元年度
旭川市社会教育基本計画
点検・評価報告書（原案）

令和2年(2020年)7月

旭川市教育委員会 社会教育部

目 次

社会教育基本計画の点検・評価について	1
基本目標 1（市民一人一人の主体的な学びの機会の充実）	3
基本目標 2（市民の学びを支える環境の整備）	12
基本目標 3（地域における学びの循環）	18
基本目標 4（市民の心を豊かにする文化芸術活動の充実）	24
基本目標 5（郷土文化の保存・活用と郷土愛の育成）	28

社会教育基本計画の点検・評価について

1 点検・評価の目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」では、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検・評価」とします。）を行い、その結果に関する報告書を作成することとされています。

これを受け社会教育部では、「社会教育基本計画」に基づき、前年度に実施した事業や取組について点検・評価を行っており、本報告書はその結果をまとめたものです。

今後、本報告書と、学校教育部が別途行う「学校教育基本計画」に基づく点検・評価とを併せて、「旭川市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書(案)」としてとりまとめた上で、学識経験者への意見聴取を経て、教育委員会会議で議決の後、市議会へ提出するとともに、公表します。

2 点検・評価の対象

社会教育部が令和元年度に行った事業や取組を対象に、点検・評価を行っています。

3 点検・評価の方法

(1) 「基本目標」と「成果目標」について

「旭川市社会教育基本計画（計画期間：平成28年度～令和9年度）」では、計画に掲げられる5つの「基本目標」ごとに、社会教育行政により「どのような状況を目指したいのか」という点を「成果目標」として設定しています。さらに、この成果目標の達成度を数値的に把握するための「成果指標」を設定しており、これが令和元年度の目標値に達した場合に「達成」、達していない場合に「未達成」として、達成状況を示しています。また「未達成」指標については、前年度の実績値との比較結果を示しています。

(2) 「基本施策」について

「基本施策」では、具体的な事業や取組についてその実績を記述するとともに、一部の事業や取組については、グラフを用いて経年変化の状況を示しています。

(3) 「今後の課題と改善に向けた方向性」について

主な事業や取組について、その課題を整理するとともに、今後の事業改善へ向けた方向性等を、具体的に記述しています。

(参考)「旭川市社会教育基本計画」の体系

社会教育推進基本方針

基本理念
 ○主体的に学び、その成果を地域づくりに生かす
 ○地域を知り、学び合いながら、絆を深め、郷土愛を育む

社会教育基本計画

基本目標	成果目標	基本施策	主な取組
基本目標 1 市民一人一人の主体的な学びの機会の充実	成果目標 1 子育て世代や高齢期などの人生における各段階で直面する課題や社会的な課題を解決できるよう、学びに関する情報提供を行うとともに、様々な学びのニーズに応えることができるよう学習機会の充実を図る。	基本施策 1-1 多様なニーズに対応した学習機会、学習情報の提供	主な取組 1-1-1 現代的・社会的な課題やニーズに対応した学習の推進 主な取組 1-1-2 ライフステージに応じた学習機会の充実 主な取組 1-1-3 学習機会の選択を支援する情報提供の充実
		基本施策 1-2 子育てをする家庭の教育力の向上	主な取組 1-2-1 親や保護者の育ちを支援する取組の充実 主な取組 1-2-2 親や保護者を孤立させない環境の整備
基本目標 2 市民の学びを支える環境の整備	成果目標 2 社会の変化や新たなニーズに応じた施設運営や本市の特性を生かした事業を展開するなど、市民が学習しやすい環境を整備する。	基本施策 2-1 施設運営や事業展開に工夫を凝らした学習しやすい環境の整備	主な取組 2-1-1 市民の学習ニーズに応じた学習環境の整備 主な取組 2-1-2 関係機関等との多様な連携による学習環境の整備
		基本施策 3-1 地域における教育力の向上	主な取組 3-1-1 市民が主体となって学習成果を還元できる環境の整備 主な取組 3-1-2 地域社会を担う団体や人材の育成支援
基本目標 3 地域における学びの循環	成果目標 3 シニア世代をはじめとした地域の人材を活用し、学習成果を還元する取組を充実させるほか、家庭、地域、学校が連携し、つながりを深めながら学び合える環境を整備する。	基本施策 3-2 家庭、地域、学校の連携の推進	主な取組 3-2-1 家庭、地域、学校の連携による青少年などの活動を支援する取組の充実
		基本施策 4-1 文化芸術活動に関わりを持つ機会の充実と独自性ある取組の充実	主な取組 4-1-1 文化芸術に親しむ機会の充実 主な取組 4-1-2 文化芸術活動への支援
基本目標 4 市民の心を豊かにする文化芸術活動の充実	成果目標 4 人々が気軽に文化芸術に触れられる取組を進めるとともに、団体等への支援や関連施設を更に活用することにより、文化芸術の振興を図る。	基本施策 5-1 郷土の文化の保存・活用と郷土愛の育成	主な取組 5-1-1 郷土の文化や歴史的資料の適切な保存と有効活用 主な取組 5-1-2 郷土愛を育むための取組の推進
		基本目標 5 郷土文化の保存・活用と郷土愛の育成	成果目標 5 アイヌ文化をはじめ地域に根付いた文化、ゆかりの文化財等の魅力を発信しながら、次代へ引き継ぐとともに、郷土愛を育む。

社会教育

基本目標 1 市民一人一人の主体的な学びの機会の充実

【成果目標 1】

子育て世代や高齢期などの人生における各段階で直面する課題や社会的な課題を解決できるよう、学びに関する情報提供を行うとともに、様々な学びのニーズに応えることができるよう学習機会の充実を図る。

成果指標の現状					
成果指標 1		目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
社会的な課題やライフステージに対応した課題を解決するための講座の受講者数	社会教育課	4,000人	5,110人	達成	—
	公民館事業課	117,205人	105,056人	未達成	⬇
	中央図書館	241人	54人	未達成	⬇
	科学館	52,840人	76,895人	達成	—
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>社会教育課</p> <p>生涯学習フェアまなびアサヒかわの来場者数(人)</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>公民館事業課</p> <p>公民館事業の参加人数(人)</p> </div> </div>					
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>中央図書館</p> <p>読書講演会、子育て支援絵本講座の参加者数(人)</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>科学館</p> <p>各種実験実習イベント参加者数(人)</p> </div> </div>					
成果指標 2		目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
社会的な課題やライフステージに対応した課題を解決するための講座への参加者の満足度	公民館事業課	80.5%	73.4%	未達成	⬇
<p>講座参加者へのアンケート調査の結果 (講座内容が役に立った)(%)</p>					
成果指標 3		目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
まなびネットあさひかわのアクセス件数	社会教育課	135,000件	92,950件	未達成	⬇
<p>旭川市生涯学習ポータルサイト「まなびネットあさひかわ」のアクセス件数(件)</p>					
成果指標 4		目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
家庭教育の支援に関する講座への参加者数	公民館事業課	8,044人	5,308人	未達成	⬇
<p>家庭教育支援講座の参加人数(人)</p>					

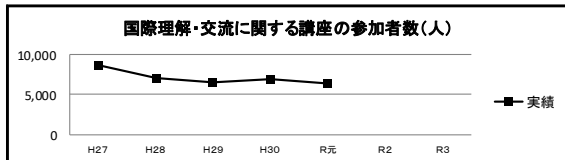
【基本施策 1-1 多様なニーズに対応した学習機会、学習情報の提供】

主な取組 1-1-1 現代的・社会的な課題やニーズに対応した学習の推進

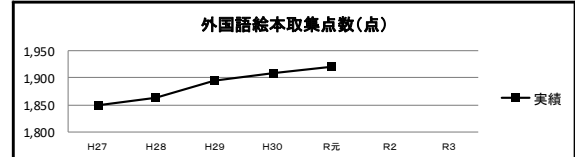
1 国際化に伴う異なる文化・習慣への理解の促進

- ・ 公民館では、NPO法人との共催などで、アメリカ・ロシア・ブラジル等について文化や言語に触れる講座を実施し、子どもから高齢者までが国際理解を深め、国際交流に関心を持つきっかけとなる学習機会を提供しました。
- ・ 図書館では、様々な言語の外国語絵本の収集・提供や、外国の民話絵本を使った行事を開催することなどにより、国際理解を推進しました。

※公民館



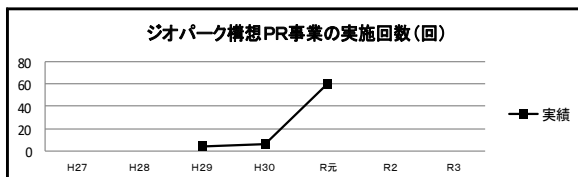
※中央図書館



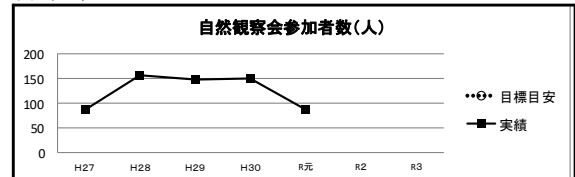
2 身の周りや地球規模での資源・環境問題への理解の促進

- ・ 社会教育課では、民間の関係団体や大学と連携しながら、地域の地質的な成り立ちや、上川中部地域が認定を目指す「ジオパーク」に関する市民の理解を促進しました。野外見学会や、科学館での小規模な展示などを数多く実施することで、ジオパークの考え方に対する理解を深めてもらうことができました。
- ・ 公民館では、環境アドバイザーやクリーンセンター等との協力・連携により、市民にとって関心の高いごみの減量や身近な環境に関する講座を多く開催し、資源や環境に関する理解や啓発を図りました。
- ・ 図書館では、不要になった図書等をリサイクル市で市民に提供し、図書等の有効活用を図りました。
- ・ 科学館では、自然観察会などの様々な野外活動等を実施し、自然環境や生命の大切さ、大地の成り立ちを実感する機会を提供しました。

※社会教育課



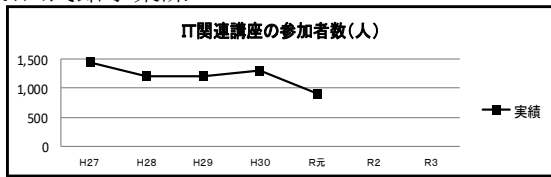
※科学館



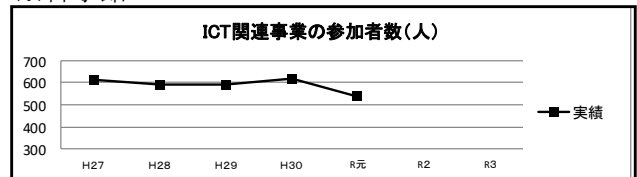
3 情報化に伴うICTの利活用の促進

- ・社会教育課では、市民がインターネットを使用して生涯学習に関する講座やイベント情報、講師情報及び施設情報を得られるよう、生涯学習ポータルサイト「まなびネットあさひかわ」を運用しました。また、サイトについて文化団体等への積極的なお知らせ等も行い、周知に努めました。
- ・公民館では、市民がパソコンに親しむために、複数の地域でパソコン講座等を実施するほか、スマートフォンやタブレット端末に関する講座を開催し、最新の情報機器に関する学習機会を提供しました。
- ・図書館では、インターネット予約サービスの利用により、利用者の利便性の確保、予約連絡業務の省力化が図られています。
- ・科学館では、科学館クラブ（パソコン教室）等を開催し、子どもたちが情報を収集・判断・処理・創造し、それを編集して表現・発信する能力を育てる講座を行いました。

※公民館事業課



※科学館

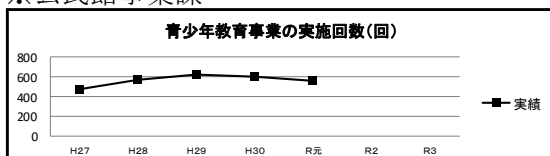


主な取組 1-1-2 ライフステージに応じた学習機会の充実

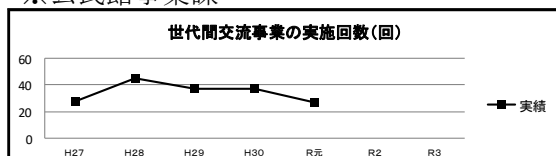
1 幼児、青少年期の生きる力を身に付ける学習機会の提供

- ・社会教育課では、市及び近郊で活動する団体やサークルの活動成果の発表の場である「生涯学習フェア」を開催しました。幅広い年代が楽しみながら学ぶことができる体験型事業を実施したほか、市内高校の生徒や大学生にも参加してもらう機会を提供しました。また、親子で様々なおもちゃでの遊びを体験できる「バリアフリーおもちゃ博」では、障がいの有無に関係なく、子どもたちがおもちゃによる遊びなどを体験する場を提供し、他者への理解や思いやりを育む機会となりました。
- ・彫刻美術館では、こども彫刻教室を開催し、小学生が楽しい造形活動を通して芸術に親しむ場を提供し、彫刻に興味を持ってもらう機会を創造することができました。
- ・公民館の青少年教育では、自然や地域の特色を取り入れ、ものづくりや自然体験など様々な知識や経験を身に付ける講座を実施するほか、子どもの健全育成支援を目的に、学習支援事業や子ども食堂の取組支援を行いました。また、世代間交流では、子どもと高齢者を中心とした異世代との交流を通じて、新しい価値観の習得や思いやりの心を育む一助とすることができました。
- ・図書館では、絵本の読み聞かせボランティアとの連携・協力により、絵本の読み聞かせやお楽しみ会を開催し、子ども達が絵本の楽しさを知る機会を提供しました。
- ・科学館では、幼児・青少年向けの事業として、実験実習、野外活動、天文教室など多様なメニューを提供しました。
- ・博物館では、郷土学習の機会を提供するため、学校等の団体受入れを実施しました。

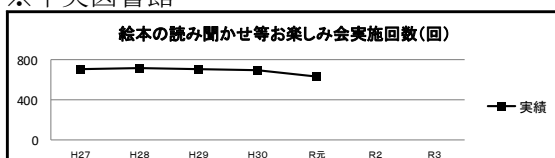
※公民館事業課



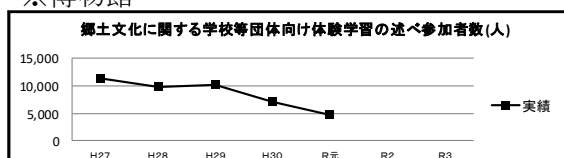
※公民館事業課



※中央図書館



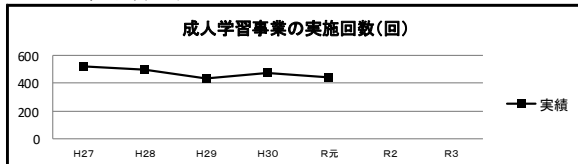
※博物館



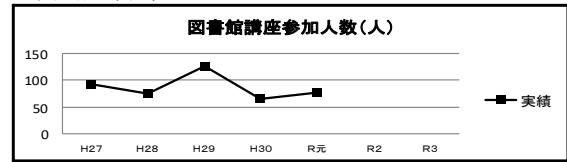
2 成人期のキャリアアップや趣味、教養に関する学習機会の提供

- ・社会教育課では、生涯学習フェアを開催し、市及び近郊で活動する団体やサークルの発表の機会をつくとともに、その発表を通じて市民に学習情報を提供しました。
- ・彫刻美術館では、市民各層で構成された旭川彫刻フェスタ実行委員会の主催により、彫刻家を講師とする木彫体験のワークショップを実施し、幅広い市民層が彫刻に親しむ場を提供しました。
- ・公民館では、各専門機関との連携やボランティアの協力を得るなど工夫しながら、多様な分野で市民の学習ニーズに応える講座を実施しました。
- ・図書館では、地元の高等教育機関等と連携して、市民の学習ニーズに応えるとともに、参加者の読書活動推進にもつながる講座を実施しました。

※公民館事業課



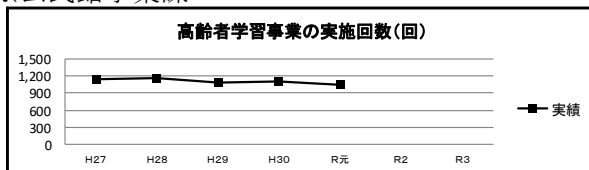
※中央図書館



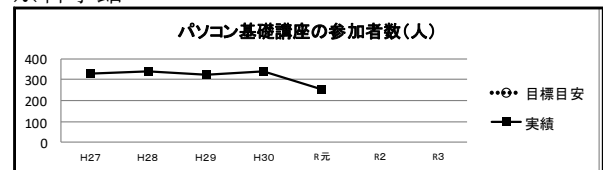
3 高齢期の生きがいづくりなどに関する学習機会の提供

- ・公民館では、年間カリキュラムに基づく各公民館の百寿大学やシニア大学を中心に、高齢者の仲間づくりとともに、一般教養や軽スポーツ等の講座を実施し、高齢者が社会と関わりを持ちながら豊かに人生を過ごすことに寄与しました。
- ・科学館で開催している高齢者向けのパソコン基礎講座は、毎回定員を超える応募があり、高齢者にとって関心度の高い事業となっています。

※公民館事業課



※科学館

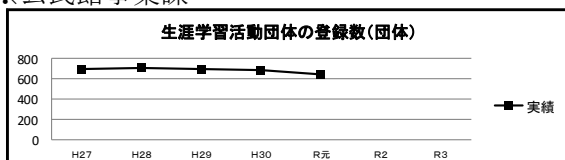


主な取組 1-1-3 学習機会の選択を支援する情報提供の充実

1 講師情報や活動団体に関する情報の提供

- ・社会教育課では、生涯学習フェアにおいて、市の各部局の行政情報や市民団体の活動報告など、様々な情報発信の機会を提供するとともに、生涯学習ポータルサイトまなびネットあさひかわにおいて、講師・指導者や団体の情報を提供しました。また、講師等から提供された家庭教育等に関する具体的な指導プログラムを掲載した「学習プログラムメニュー」を作成し、小中学校、育児サークルなどニーズのある機関等に配布しました。
- ・公民館では、公民館を拠点に生涯学習活動を行う団体の情報を、旭川市のホームページや生涯学習ポータルサイトまなびネットあさひかわで紹介するとともに、館内掲示や公民館だより等の紙媒体での情報発信を行い、市民の学習機会の選択支援と生涯学習活動への参加意欲の喚起を図りました。
- ・図書館では、各種情報媒体を活用して図書館ボランティアの活動を紹介しており、新たに市民がボランティア活動へ参加するなどの効果が見られます。

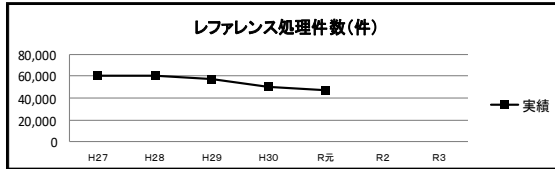
※公民館事業課



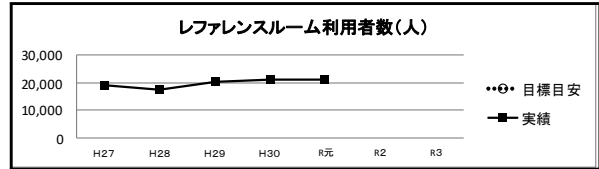
2 課題解決を支援する各種情報の提供

- ・社会教育課では、市が行う様々な事務・業務や専門的知識を市職員等が出向いて広く伝え、市民に学習機会を提供する「出前講座」を、インターネットや紙媒体で周知しながら実施し、市民の学習活動を支援しました。
- ・図書館では、市民が学習活動を進める上で必要となる資料の検索・提供等を通じて市民へのレファレンスサービスを行い、図書館でしか提供できない資料や情報による課題解決を支援しました。
- ・科学館のレファレンスルームでは、標本資料の観察や書籍等を利用した情報収集に関心のある利用者が数多く訪れ、広く市民に科学情報の検索・閲覧できる環境を提供しています。

※中央図書館



※科学館



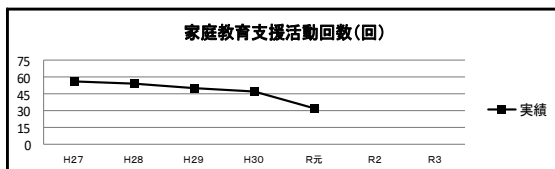
【基本施策 1-2 子育てをする家庭の教育力の向上】

主な取組 1-2-1 親や保護者の育ちを支援する取組の充実

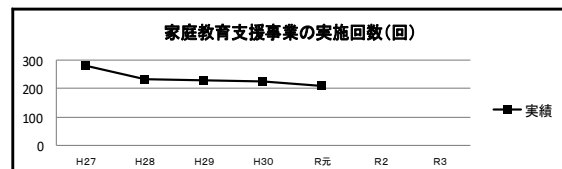
1 家庭教育に関する学習機会の充実

- ・社会教育課では、家庭教育学級などが行う自主的な活動への補助金の交付や、地域の講師や団体、企業等の協力を得て保護者が研修会等を行おうとする際に具体的なプログラムとして活用できる、「学習プログラムメニュー」を作成しました。また生涯学習フェアにおいては、地元短期大学の幼児教育学科の学生ボランティアの協力のもと、家庭教育講座として、様々なおもちゃでの遊びを通して親子が楽しみながら学ぶ機会を提供するとともに、同フェア等で、子育て中の保護者が気軽に子育ての悩みや不安を話し、交流できるようサポートするための人材として認定を受けた「家庭教育ナビゲーター」が中心となり、子育て中の保護者同士が交流する場「学びカフェ」を実施しました。
- ・公民館では、農業体験・料理・工作など親子が共同で取り組める講座を主体に家庭教育支援事業を実施し、楽しみながら学習を深めるとともに、保護者同士の交流の機会にもなるなど、家庭教育の支援の場としての役割を果たすことができました。
- ・図書館では、道内在住の絵本作家による子ども読書活動推進講演会を開催し、多くの保護者に読書や読み聞かせの大切さを学ぶ機会を提供しました。
- ・科学館では、幅広い年代を対象とした体験学習の機会を提供する中で、親子で参加可能な事業を積極的に実施しました。

※社会教育課



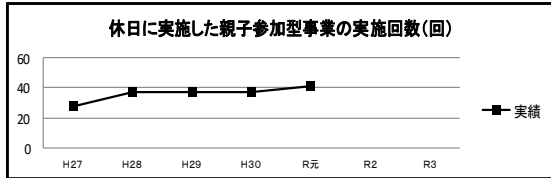
※公民館事業課



2 父親の家庭教育への参加を支援する取組の充実

- ・社会教育課では、PTA連合会へ補助金を交付し、連合会が実施する保護者同士の交流や家庭教育への理解を深める活動を継続的に支援しており、自然体験活動などの運営に父親の参加があるなど一定の効果がありました。
- ・公民館では、親子参加型事業を父親も参加しやすい土曜日や日曜日に開催し、親子ふれあい農業体験などでは両親での参加も見られ、父親の家庭教育参加に一定の効果がありました。

※公民館事業課



主な取組 1-2-2 親や保護者を孤立させない環境の整備

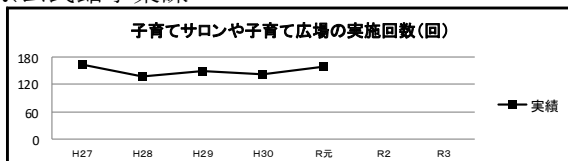
1 交流会やサークル情報等の提供

- ・社会教育課では、子育てや家庭教育学習に関する情報を集約した家庭教育・子育て行事等カレンダーを作成し、市有施設等のほか関連イベント等でも配布を行い、広く情報提供を行うことができました。
- ・公民館では、子育てに関する講座や育児サークルの情報をホームページ等で発信し、交流の機会に関する情報提供を行いました。

2 子育て中の親や保護者のネットワークづくりの支援

- ・社会教育課では、養成研修を受講し認定を受けた「家庭教育ナビゲーター」が中心となって、子育て中の保護者の交流の場である「学びカフェ」を実施し、保護者の相談に応じたり、家庭教育に関する情報を提供しました。また、ナビゲーターのスキルアップ研修を実施し、ナビゲーターの能力向上に努めました。
- ・公民館では、地域の民生委員児童委員連絡協議会等と連携し、子育てサロンや子育て広場を開設し、子育て中の保護者や妊婦が孤立することがないように相談に応じたり、保護者同士の交流の機会とするなど子育て支援の場として役割を果たしました。

※公民館事業課



今後の課題と改善に向けた方向性

令和元年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、年度末に予定していたイベント等の中止が相次いだことから、全体を通じて、行事の参加者数等が例年より減少する傾向となりました。

< 1-1-1 現代的・社会的な課題やニーズに対応した学習の推進 >

- 社会教育課では、ジオパーク認定を目指すに当たり、地質分野の専門的知識を持つ専門員を活用するとともに、科学館とも連携しながら、地域の地質的な成り立ちに関する市民の理解を深める取組を積極的に進めていきます。

また、生涯学習ポータルサイトまなびネットあさひかわのアクセス数が微減となっていることから、広報誌等で周知するほか、SNSを活用するなど、引き続き周知方法を検討していきます。

- 公民館では、外国語の学習や異文化体験を通して国際理解を深め、国際交流に関心を持つきっかけづくりとなるよう、都市交流課や国際交流関係団体など関係機関のノウハウを活用し、引き続き市民のニーズに合った講座を実施していきます。

資源・環境問題は、身近なものから地球規模のものまで範囲が広く内容も様々であることから、身近な資源・環境に関する講座を継続的に行いながら、地球規模の環境に関わる講座も実施し、資源や環境について考えるきっかけとなるよう、講座内容を検討していきます。

IT関連講座は需要が高いですが、初心者を対象とした講座は文書作成等の基本操作が中心で、ITに関する事故防止やモラル啓発を行うことが難しいため、今後も講座参加者に対し、公民館において活動するITサークル等の情報提供を行い、スキルアップや事故防止等の学習を促していきます。

- 図書館では、読書活動を通じた国際理解の推進を図るため、外国語絵本を通してその国の生活や文化に興味をもってもらえるよう、様々な言語の外国語絵本の収集を進めるとともに、市内在住の外国人や絵本のボランティアサークル等とも連携・協力し、原語と日本語による読み聞かせ会などを開催していきます。

図書等のリサイクル市は、参加者が年々減少傾向にあることから、事前の周知を充実させるとともに1回当たりの提供冊数を調整するなど、より効果的な取組となるよう見直しを行います。

また、図書館利用者の利便性の向上と予約連絡作業の効率化を図るためには、インターネット予約制度の利用者を更に拡大する必要があるため、図書館利用カードの新規申込み時に制度を紹介するなど利用促進に努めます。

- 科学館では、自然観察会の内容に新たな視点・テーマを導入したり、実施時期を改善するなど、工夫を凝らしながら継続して開催します。

また、科学館パソコンクラブについては、継続的に実施していくためにパソコンのOS、ハードウェアを適切に更新していきます。

< 1-1-2 ライフステージに応じた学習機会の充実 >

- 社会教育課が実施する生涯学習フェアでは、楽しみながら学べる体験や学びの成果を発表する機会を提供していますが、イベントの認知度がまだ低く、また、来場日に偏りがあることから、効果的な広報、イベントの構成、会場の設定について検討していきます。

バリアフリーおもちゃ博は、子どもの成長に欠かせない遊びや体験ができる学びの場となっていることから、実行委員会と連携をしながら継続して支援していきます。

- 彫刻美術館の子ども彫刻教室は、今後もより一層、多くの市民に彫刻について理解を深めてもらうため、制作を通してだけでなく、完成作品を彫刻美術館本館やステーションギャラリーで展示するなど工夫しながら、継続的に実施していきます。

- 公民館における青少年教育や成人学習に関する事業は、内容によっては参加者数が少ないものがあることから、より対象者の興味・関心に沿った講座となるよう内容を検討するとともに、新たな分野の講座開催に取り組みます。世代間交流事業は、核家族化により子どもと高齢者が接する機会が減っていることから、小学校などと連携を図りながら事業の継続発展を進めていきます。高齢者学習については、需要が高く非常に好評であることから、今後も高齢者の生きがいづくり

や心身の健康維持を図るとともに、その学習成果を地域に還元できるよう、各関係機関と連携・協力しながら、シニア大学の体制やカリキュラムについて重点的に取り組み、継続して実施していきます。

- 図書館では、絵本の読み聞かせ等お楽しみ会について参加者増に向け情報発信を工夫するほか、地域等への絵本の読み聞かせボランティア派遣など、図書館以外の場でも子どもたちが本に親しむ機会を提供していきます。

また、成人・高齢者向けの講座は、図書館の利用拡大や参加者の生きがいをづくりにもつながるよう、公民館やシニア大学とも連携・協力して、テーマや講師の選定を進めるとともに、図書館の利用案内や館内見学、図書館を会場とした共催事業等の実施も検討していきます。

- 科学館では、事業によって参加者数に大きな差があることから、世代のニーズに対応した事業内容や新たな視点・テーマの導入について検討していきます。
- 博物館では、学校等の団体観覧者数は減少傾向にありますが、今後も積極的に団体を受け入れていくため、郷土学習に関する体験学習の内容を充実させ、参加者数の増加を図ります。

＜1-1-3 学習機会の選択を支援する情報提供の充実＞

- 社会教育課では、生涯学習フェアが、様々な団体の活動紹介の場として利用されていることから、引き続き、広く参加を募り周知方法を工夫するほか、生涯学習ポータルサイトまなびネットあさひかわについては、より一層周知することにより、講師・指導者や団体の情報の充実を図っていきます。また、講師等から提供された家庭教育等に関する具体的な指導プログラムを掲載した「学習プログラムメニュー」については、様々な学習ニーズに応えるため掲載内容の充実を図ります。

- 公民館では、ホームページや公民館だよりにおいて、公民館を拠点に様々な活動に取り組む団体・サークルの情報を積極的に発信するとともに、公民館の利用者やその他の市民に体験講座等を通して団体・サークルの活動を紹介するなど、それぞれのニーズに合った情報を提供していきます。また今後、地域への協力を希望する団体等の情報を、地域の小中学校などへ提供していきます。

- 図書館では、各種情報媒体での図書館ボランティアの周知を継続するとともに、ボランティアの募集について、ボランティア団体と積極的に打合せを行う等、分かりやすい情報発信に努めていきます。

また、レファレンスサービスの充実のため、担当職員の育成・スキルアップや資料の充実・更新に努めていきます。

- 科学館では、レファレンスルームの充実と認知度を向上するため、展示方法や活用方法を工夫します。

＜1-2-1 親や保護者の育ちを支援する取組の充実＞

- 社会教育課では、「学習プログラムメニュー」の効果を把握するための手法を検討しながら掲載情報の充実を図っていきます。生涯学習フェアの中で行われている家庭教育講座は、子どもたちの見守りや遊び方の助言などを行う学生ボランティアの協力を得るとともに、その意見を取り入れながら引き続き実施し、「学びカフェ」については、家庭教育にあまり関心がない保護者でも子育てに関する情報に触れるきっかけとなるよう、多くの親子が集まるイベント等の場をその会場として利用するなど、実施方法を検討していきます。

また、PTA連合会への補助金を継続することで、連合会が行う保護者の交流や学習の活動を支援していきます。

- 公民館では、地域の団体やボランティアサークルなどとの連携を保ちながら、親子のコミュニケーションを通じて保護者の支援も含めた学習内容を提供していくほか、雇用環境の多様化や従来の親子観の変化も踏まえ、父親が積極的に家庭教育に関わるための講座を実施します。

- 図書館の講座・講演会は、開催回数の減少等により参加者が減少していますが、参加者の学習ニーズに応える講師の選定・確保、父親も参加しやすい企画や家族を対象とした企画など講座内容の検討を進めていきます。

- 科学館では、親子が共に学べ、満足度の高い体験学習の機会を提供するため、参加者のアンケートの活用などを通じて工夫を重ねていきます。

< 1-2-2 親や保護者を孤立させない環境の整備 >

- 社会教育課では、親や保護者の孤立化を防止するためには地域人材との協働が必要なため、養成した家庭教育ナビゲーターが自主的に「学びカフェ」を企画実施して活躍できるような機会を提供し、自主的な活動につながっていくよう働きかけます。
- 公民館の子育てサロンや子育て広場については、毎回多くの子育て中の保護者や妊婦が参加していることから、今後も自由に参加ができ、お互いに相談や交流のできる場の提供を継続するとともに、ホームページや公民館だよりなどで効果的に情報発信を行っていきます。

社会教育 基本目標 2 市民の学びを支える環境の整備

【成果目標 2】

社会の変化や新たなニーズに応じた施設運営や本市の特性を生かした事業を展開するなど、市民が学習しやすい環境を整備する。

成果指標の現状					
成果指標 1		目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
社会教育施設（社会教育部所管）の利用 利用率又は利用者数 ※彫刻美術館は、計画策定時に本館休館中だったため、 ステーションギャラリーの入館者数。	文化会館	65.2%	61.7%	未達成	↘
	クリスタルホール	64.4%	58.2%	未達成	↘
	彫刻美術館	10,968人	8,825人	未達成	↘
	公民館事業課	711,559人	647,423人	未達成	↘
	中央図書館	500,000人	397,362人	未達成	↘
	科学館	280,000人	237,405人	未達成	↘
	博物館	24,520人	27,522人	達成	—
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>文化会館</p> <p>ホールの利用率(年間)(%)</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>クリスタルホール</p> <p>国際会議場及び音楽堂の利用率(年間)(%)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 48%;"> <p>彫刻美術館（ステーションギャラリー）</p> <p>ステーションギャラリー(旭川駅構内)の入館者数(人)</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>公民館事業課</p> <p>公民館の利用者数(人)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 48%;"> <p>中央図書館</p> <p>図書館の貸出利用者数(人)</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>科学館</p> <p>年間入館者数(人)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 48%;"> <p>博物館</p> <p>博物館の年間入館者数(人)</p> </div> </div>					
成果指標 2		目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
社会教育施設を利用しやすいと感じる市民の割合	公民館事業課	65.1%	58.1%	未達成	↘
<p>公民館施設利用者へのアンケート調査の結果（施設・貸出物品が快適に使える）(%)</p>					

成果指標 3		目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
地域の特色を生かした事業への参加者数	公民館事業課	330人	2,956人	達成	—
<p>地域の特色を生かした事業への参加者数(人)</p>					
成果指標 4		目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
高等教育機関等との連携による事業実施回数	社会教育課	6回	6回	達成	—
	公民館事業課	97回	180回	達成	—
	中央図書館	3回	3回	達成	—
社会教育課		<p>旭川ウェルビーイング・コンソーシアムとの連携による事業実施回数(回)</p>			
公民館事業課		<p>高等教育機関と連携した講座の実施回数(回)</p>			
中央図書館		<p>図書館講座及び大学図書館と連携した職員研修の実施回数(回)</p>			

【基本施策 2-1 施設運営や事業展開に工夫を凝らした学習しやすい環境の整備】

主な取組 2-1-1 市民の学習ニーズに応じた学習環境の整備

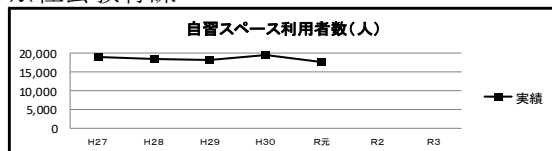
1 市民の学習ニーズを反映した社会教育施設の運営

- ・社会教育課では、市中心部の買物公園に面した商業施設内において、学生等が自由に利用できる自習スペースを運営し、利用者の多い夏期休業中は臨時的に席を増やすなど、利用者ニーズに応じた環境を整備することができました。
- ・文化振興課では、平成30年8月に上川倉庫蔵囲夢内に開設した市民ギャラリーをはじめ、文学資料館、井上靖記念館等の各施設の管理運営を行い、文化団体の作品展示や、旭川市にゆかりの深い文学について学ぶ企画展や読書会など継続的な学習の機会を提供することができました。
- ・文化会館・公会堂は、施設運営に係る業務を民間に委託し効率的な運営を行っています。
- ・クリスタルホールについては、館内設備の修繕等を行いながら、利用しやすい環境の整備に努めました。
- ・彫刻美術館では、彫刻美術館本館とステーションギャラリーの2館における常設展及び企画展を通して「彫刻のまち旭川」の魅力を発信しました。ステーションギャラリーでは、織田コレクションの展示や若者の発表の場として大学生作品展を開催するなど、彫刻にとらわれない文化芸術の発信拠点として活用を図りました。
- ・公民館では、業務委託費用の見直しを含め、各公民館において適切な管理運営を行うとともに、一部の公民館では地域で組織する団体の指定管理者制度による運営を行うことで、地域ニーズに即した運営を行っています。
- ・図書館では、市民が利用しやすく快適に過ごせる読書環境の整備・充実、施設管理を行いました。

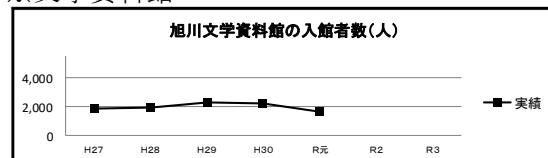
また、高齢者や障がい者を含む様々な市民の学習ニーズに応えるため、図書館資料の収集やインターネット予約制度のほか、ボランティアの協力も得て、図書宅配サービス、障がい者向けの対面朗読や音訳サービスなどにも継続的に取り組みました。

- ・科学館では、引き続き、小中学校の夏・冬休み期間にプラネタリウム特別投影を核とした企画を実施し、普段の開館時とは異なる長期休業中における市民の学習ニーズに応えることができました。
- ・博物館では引き続き、各種体験学習や企画展を実施しています。
- ・科学館と博物館では、入館者数が増加傾向にありましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための施設休館の影響を受け、両館とも入館者数は微減となりました。

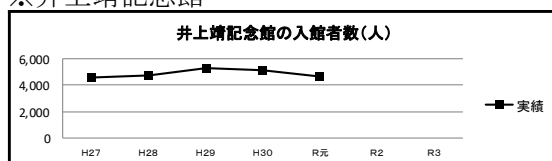
※社会教育課



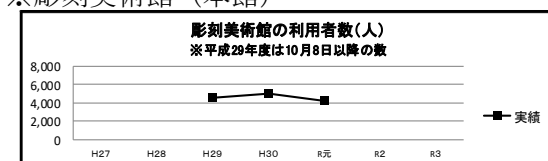
※文学資料館



※井上靖記念館



※彫刻美術館（本館）



2 誰もが利用しやすい社会教育施設の整備

- ・常磐館では、設備の修繕を行うことで、安全な利用環境を整備するとともに、長寿命化対策を行いました。
- ・文化会館・公会堂やクリスタルホールでは、安全かつ安定した運営に当たり、優先度や経済性等を考慮しながら、施設の機能維持のために必要な整備を行いました。
- ・公民館は、団体利用を基本とする施設ですが、世代にかかわらず個人でも利用できる施設開放事業を実施しました。また、施設利用者の安全性や快適性を確保するため、施設・設備の改修や整備を行いました。
- ・中央図書館では、小中学校の夏・冬休み期間に、通常は休館日である月曜日を開館し、子どもの読書活動推進及び学習支援を行うとともに、開館時間を早め、土日祝日の閉館時間を延長するなど、多様な生活形態の市民が利用しやすい施設となるような取組を継続しています。
- ・科学館では、経年劣化や老朽化の対応として冷暖房設備の点検補修等を行いました。
- ・博物館では、嵐山公園内にあるアイヌの住居「チセ」の補修を行いました。

3 社会教育施設の拠点機能の充実

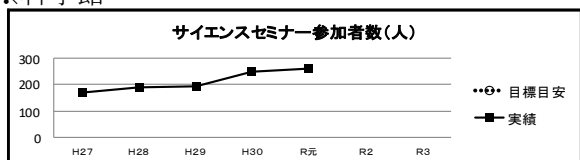
- ・公民館では、事務局等として、引き続き、地域まちづくり推進協議会の運営支援に参画することで、地域課題を把握し、地域に根ざした公民館運営を行うことができました。
- ・図書館では、中央図書館・地区図書館・分室・自動車文庫等のネットワーク機能により、市民が最寄りの図書館・分室等でサービスを受けることができる環境となっており、各施設には司書を配置し、読書機会の提供や学習活動の支援を行っています。また、中央図書館での開館時間の拡充は、地域拠点のひとつとして利用者の利便性向上に資することができました。

主な取組 2-1-2 関係機関等との多様な連携による学習環境の整備

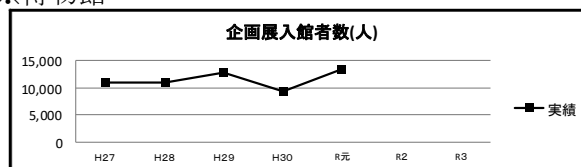
1 高等教育機関等との連携による高度な学習機会の提供

- ・社会教育課では、引き続き、市内の高等教育機関の連携機関である旭川ウェルビーイング・コンソーシアムとの共催で、旭川オープンカレッジを実施したほか、地元短期大学の幼児教育学科の協力や放送大学との連携により、生涯学習フェアにおいて家庭教育講座や講演会を開催し、市民に学習機会の提供をしました。
- ・公民館では、高等教育機関等の協力のもと、各機関の持つ高い専門性や幅広い分野でのノウハウを生かし、旭川全域や一部地域における特色ある環境・文化・歴史等の資源に関する講座を展開しました。
- ・図書館では、地元の有識者や専門家等と連携して講座を開催し、市民の学習ニーズに応えるとともに、参加者の読書活動推進に資することができました。
- ・科学館では、各地の研究者と連携して、市民が普段接する機会のない専門性豊かな内容の自然科学に関する講座を開催し、前年度を上回る多くの参加がありました。
- ・博物館では、地元の大学と連携した連続講座「歴史と言語～アイヌ文化の視点から」を開催し、市民に専門分野の学習機会を提供するとともに、様々なテーマの企画展を開催し、多くの参加がありました。

※科学館



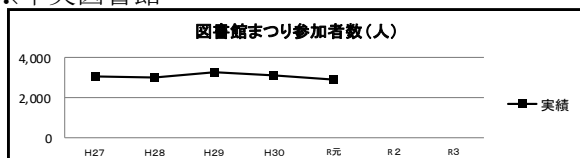
※博物館



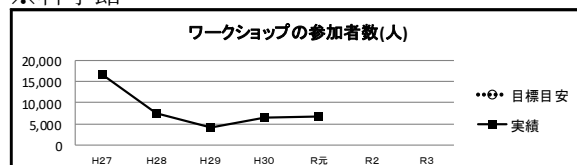
2 社会教育関係団体等との連携による特性を生かした学習機会の提供

- ・社会教育課が開催した生涯学習フェアでは、生涯学習インストラクターの有資格者の会、自然・環境・歴史的な建物の保存などについて考える団体等が参加し、それぞれが特色ある展示・体験会を実施しました。
- ・文学資料館では、文学資料友の会との協働により各種企画展を引き続き実施し、広く地域ゆかりの文学を紹介し、市民の文学活動の推進と文学の振興を図ることができました。
- ・公民館では、様々な分野の社会教育関係団体等と共催又は連携をしながら、旭川全域や一部地域における特色ある環境・文化・歴史等の資源を生かした講座を開催し、幅広い世代に学習機会を提供することができました。
- ・図書館では、多くの図書館ボランティアの協力を得て、引き続き、図書館まつりや絵本の読み聞かせ等を実施し、幅広い世代に図書館や読書に親んでもらう機会を提供しました。
- ・科学館では、サイエンスボランティア旭川が主体となり、各種工作や実験教室等を年間を通じて協働で開催することにより、いつ来ても楽しめる科学館の演出に貢献しています。

※中央図書館



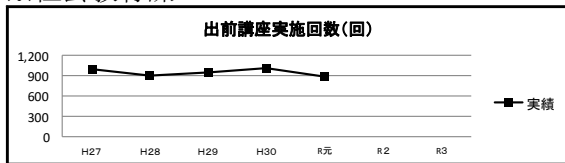
※科学館



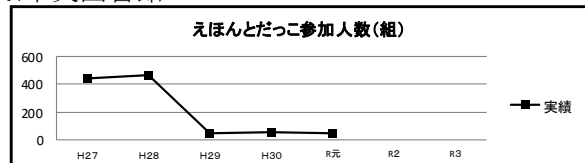
3 市長部局との積極的な連携による学習機会の提供

- ・社会教育課では、市の各部局と連携し、市職員や関係団体の職員等を講師として派遣する「出前講座」の情報をまとめた冊子を、支所や市有施設に配布し、多様な学習機会を提供することができました。
- ・公民館では、市長部局との事業共催や講師派遣により、行政機関のノウハウを生かした農業・環境などの講座や、郷土学習「我が街旭川」など多岐にわたる分野で学習機会を提供することができました。
- ・図書館では、保健所が実施する「絵本と歯ブラシ」や、福祉保険部主催の「子ども手話講座」などの事業への協力や、子育て支援部が実施する乳幼児健康相談の会場において、絵本の読み聞かせと図書館の利用案内を実施しました。また、市の各部局と連携した企画パネル展示では、市民に様々な情報を提供することができました。

※社会教育課



※中央図書館



今後の課題と改善に向けた方向性

<2-1-1 市民の学習ニーズに応じた学習環境の整備>

今後、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための新たな生活スタイルが定着していくことを見据え、各社会教育施設においても、これに見合った施設の運営形態や利用方法を検討し、導入していきます。

- 社会教育課が管理する自習スペースは学生を中心に多くの利用がありますが、学生の試験期間前などは座席数が不足することがあるため、適切な対応方法を検討していきます。
- 文化振興課では、既存施設である上川倉庫蔵囲夢を利用して市民ギャラリーを開設しましたが、施設を管理する団体と共用しておりギャラリーとしての利用に制約があるため、当該団体と協議を行い利便性の向上に向けた改善を図っていきます。

また、常磐館内の文学資料館では、市民団体との協働により資料の整理を進めながら、長期的な視点で事業を継続します。施設の管理については、常磐館は老朽化が著しく、バリアフリー面や構造面で多くの課題を抱えているため、必要な施設整備を行うとともに、機能の移転等の方向性を検討していきます。

- 文化会館及び公会堂については、利用者ニーズの把握や施設整備の方向性を検討しながら、計画的かつ経済的な施設の運用及び補修等を進めていきます。
- クリスタルホールについては、建物などの老朽化が進んでいますが、利用者の安全確保と文化ホールとしての機能を維持するため、長期的な施設補修計画を立て、設備の整備や機器の更新を行っていきます。

- 彫刻美術館では、分館であるステーションギャラリーと連動した魅力ある企画展の実施や、外部機関との連携を通して「彫刻のまち旭川」の情報発信の場として機能強化を図っていきます。
- 公民館では、老朽化している施設の状態を把握し、予防的な改修・修繕等を計画的に実施するとともに、指定管理者制度の導入拡大に向け、引き続き、検討を行います。

また、公民館利用のきっかけとなる施設開故事業を継続するほか、地域まちづくり推進協議会における協議内容等を踏まえ、地域課題の解決の一助となるような活動を継続していきます。

- 図書館では、施設の老朽化等に対し、長期的かつ計画的な保守・補修を進めていきます。

図書館資料については、限られた予算の中で電子書籍等の新たなニーズへの対応は困難ですが、図書館間の相互貸借や寄贈資料を積極的に活用するとともに、資料の劣化防止のためデジタル化を進めるなど多様化する利用者ニーズに対応していきます。

また、中央図書館では、平成31年4月から開館時間の拡大を本格実施したことから、利用拡大につながるよう周知に努めます。

- 科学館では、市民の期待に応えられるような企画内容・質・規模の催事を継続的に実施するため、予算の確保や高等教育機関、企業、団体等との連携の強化を行っていきます。
また、施設の老朽化に対しては、引き続き緊急性の高いものから順次修繕を行っていきます。
- 博物館では、今後も時宜を得た企画展の開催や普及活動を充実させながら、講座等の参加人数増加に向けて取り組んでいきます。

<2-1-2 関係機関等との多様な連携による学習環境の整備>

- 社会教育課が高等教育機関と連携して行う講座では、参加者が高齢化や固定化しているものもあることから、広報や開催日時などの開催方法を検討し、若年層にも魅力のある講座となるよう工夫します。また、家庭教育講座では、専門的な教育を受けた学生の力を借りることでより充実した内容となり、学生にとっては保護者等と交流できる場となることから、今後も高等教育機関との連携を深めながら事業を実施していきます。市長部局との連携では、多くの市民が身近な課題に関する学習機会を得ることができるよう、出前講座の周知冊子を、効果的な配付場所等の検討も行いながら、広く提供していきます。
- 文学資料館については、引き続き、市民団体と連携して資料整理を着実に進めるとともに、旭川の文学を広く市民へ紹介していきます。
- 公民館では、高等教育機関の講師による専門分野の講座は参加者から好評であることから、市内高等教育機関との連携を深め、各専門分野のノウハウを生かした講座や学生との連携講座を継続して実施していきます。
また、幅広い世代に、郷土学習など様々な分野での学習機会を提供するため、多様な社会教育関係団体等と連携し、定期的及び時宜を得た事業を展開していきます。
- 図書館では、高等教育機関等と連携した講座について、参加対象に即した講師の選定、開催日時に配慮し、図書館の利用拡大も視野に入れた新鮮なテーマを取り入れるなど、多くの市民が興味を持てるような内容とします。また、より多くの市民に図書館行事へ参加してもらうため、情報発信を工夫するほか、図書館以外の場でも子どもたちが本に親しむ機会を増やすため、保育所や幼稚園、学校、地域とも連携・協力を図っていきます。保健所の乳幼児健康相談会場において行っている「えほんどだっこ」については、実施日が図書館の休館日である月曜日と重なることが多いため、事業の継続についてボランティアとも連携・協力して検討していきます。
- 科学館のサイエンスセミナーでは、高度な専門性を担保しつつ、市民にとって理解しやすく充実した講座とするため、講師にその時々話題性の高い内容を依頼するとともに、広報活動を徹底することで参加者の増加につなげていきます。
また、サイエンスボランティア旭川との連携については、募集活動に協力して会員数を増やすことで、活動内容の充実につなげていきます。
- 博物館の専門分野を学ぶ講座や企画展では、専門性と親しみやすさの両立が求められるため、より理解しやすくなるよう、内容やタイトルなど講師と協議しながら実施していきます。

社会教育 基本目標 3 地域における学びの循環

【成果目標 3】

シニア世代をはじめとした地域の人材を活用し、学習成果を還元する取組を充実させるほか、家庭、地域、学校が連携し、つながりを深めながら学び合える環境を整備する。

成果指標の現状					
成果指標 1		目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
ボランティアと連携して実施する事業の回数 ※中央図書館は、ボランティアの行事参加者数	公民館事業課	416回	983回	達成	—
	中央図書館	1,627人	1,435人	未達成	⬇
	博物館	4回	5回	達成	—
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>公民館事業課</p> <p>ボランティア等との連携で実施する事業回数 (回)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>中央図書館</p> <p>子ども読書推進ボランティアの行事参加者数 (人)</p> </div> </div>					
<p>博物館</p> <p>退職校長がボランティアとの連携で実施する事業回数 (回)</p>					
成果指標 2		目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
事業への参加を通じて新たな人とのつながりができた人の割合		70.7%	59.3%	未達成	⬇
<p>事業参加者へのアンケート調査の結果 (事業を通じて新たな人とのつながりができた) (%)</p>					
成果指標 3		目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
シニア世代の知識や経験を伝える世代間交流の実施回数		28回	27回	未達成	⬇
<p>高齢者が参加する世代間交流事業の実施回数 (回)</p>					
成果指標 4		目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
学校、地域、家庭と連携して実施した事業の参加者数	社会教育課	1,600回	1,142回	未達成	⬇
	公民館事業課	20,724人	16,155人	未達成	⬇
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>社会教育課</p> <p>地域学校交流活動回数 (回)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>公民館事業課</p> <p>家庭教育支援事業及び青少年教育事業への参加者数 (人)</p> </div> </div>					

成果指標 5		目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
青少年活動に関する事業への参加者数	公民館事業課	12,679人	10,847人	未達成	↘

青少年教育事業への参加者数(人)

年度	目標目安	実績
H27	12,679	12,679
H28	12,679	12,679
H29	12,679	12,679
H30	12,679	12,679
R元	12,679	10,847
R2	12,679	10,847
R3	12,679	10,847

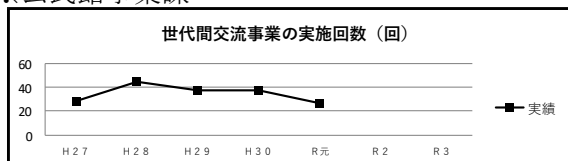
【基本施策 3-1 地域における教育力の向上】

【主な取組 3-1-1 市民が主体となって学習成果を還元できる環境の整備】

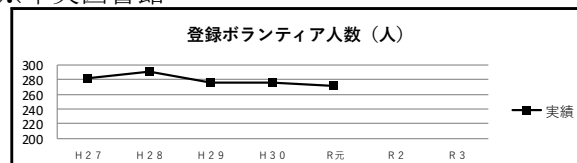
1 シニア世代などの知識・技術を生かした活動の場の提供

- ・井上靖記念館では、読書サークルと共催で「赤い実の洋燈（ランプ）読書会」を開催し、サークルの会員が講師となる講座を継続的に実施しました。
- ・公民館では、世代間交流事業を実施し、高齢者が子どもたちとの交流を通じて自らの知識や経験を生かす機会を提供し、他の世代に対する理解を深めるための一助とすることができました。
- ・図書館ボランティア登録団体には、多くのシニア世代も積極的に参加しており、それぞれの分野で活発に活動して図書館サービスを支えています。また、図書館側でもボランティアに対し、活動場所や研修機会の提供などの支援を行っています。

※公民館事業課



※中央図書館



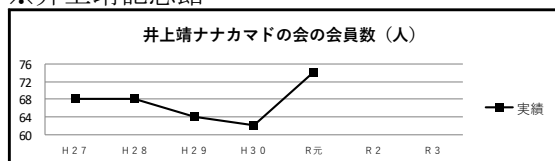
2 学習成果を生かしたボランティア活動の促進

- ・井上靖記念館では、館開設時から継続して実施をしている井上靖ナナカマドの会の会員数が、会員によるパンフレット作成や声かけ等を行ったことにより大きく増加しました。また、同会による喫茶コーナーの運営やガイドボランティア、館主催事業への参加協力、自主研修などの活動を通じ、井上文学への理解を深めながら、活動が充実するよう支援しました。
- ・クリスタルホールでは、接遇研修を受講したコンサートボランティアが活動し、演奏会の円滑な運営の補助を行いました。また、登録者へのアンケート調査により活動内容の改善を図ったほか、ホームページに主催者向けのボランティア活用方法等について掲載することなどにより、ボランティアの活動を周知しました。
- ・彫刻美術館では、旭川彫刻サポート隊による野外彫刻の定期的な清掃活動やワックス塗付などの維持管理や、ボランティアの会「みゅうず」による喫茶コーナー及び美術鑑賞の記念グッズの物販コーナーの運営により、館内外の彫刻作品を鑑賞する市民等に対し、より幅広いサービスを提供することで、魅力ある館の運営と市民サービスの充実が図られました。
- ・公民館では、シニア大学の学生によるごみのポイ捨て禁止運動等のボランティア活動、同大学卒業生等の自主組織「シニアの会」による食ベマルシェの支援や「まちなか講座」の運営協力が継続されました。また、平成30年度からは、同大学院生による「我が街旭川」の調査・研究成果を、百寿大学とシニア大学の講座においてボランティア講師として発表し、学習成果が発揮されました。
- ・図書館では、図書館ボランティア登録団体に、活動場所や研修機会の提供、活動成果の発表の支援など、図書館サービスを支える様々な活動を活発に行うことができるよう必要な支援をしてい

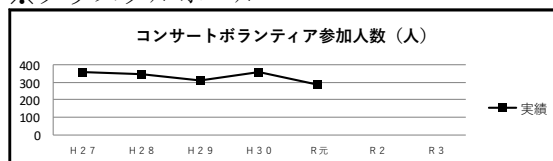
ます。

- ・科学館では、サイエンスボランティア旭川と協働で事業等を実施し、またボランティアの自主企画・自主開催による催しも行われています。
- ・博物館では、退職校長会旭川支部の有志で構成される博物館ボランティアと連携し、資料の整理や調査、博物館普及講座の支援を推進しました。

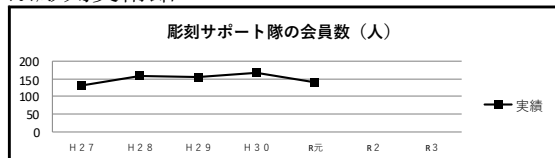
※井上靖記念館



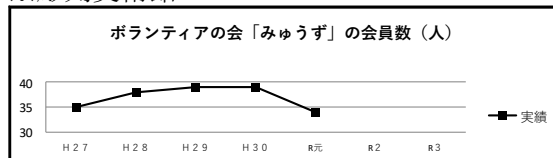
※クリスタルホール



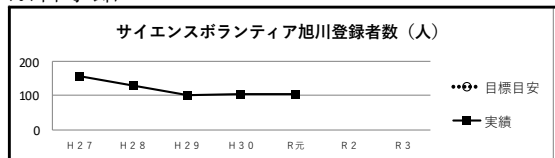
※彫刻美術館



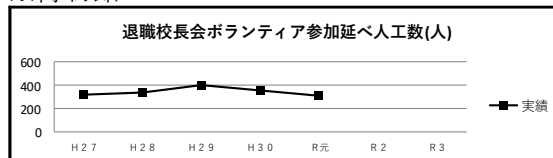
※彫刻美術館



※科学館



※博物館

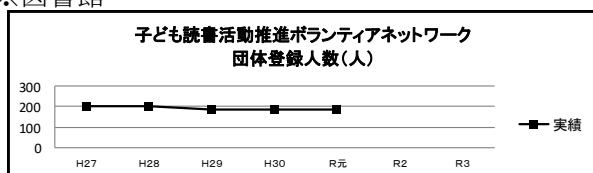


主な取組 3-1-2 地域社会を担う団体や人材の育成支援

1 社会教育関係団体の育成支援

- ・社会教育課では、PTA連合会が行う各種の活動へ補助金を交付したほか、社会教育活動補助金を、市民にとってよりわかりやすい制度とするため、文化芸術事業補助金と統合し、社会教育・文化芸術事業補助金として、家庭教育学級などが行う自主的な学習活動へ交付しました。
また、社会教育団体の活動成果の発表の場として生涯学習フェアを開催しました。
- ・公民館では、家庭教育・青少年・成人・高齢者など様々な分野の社会教育関係団体等との共催により、子育てサロン、健康講座、子ども向けの外国語講座等を定期的に開設し、幅広い世代に多様な学習機会を提供することができました。
- ・図書館では、絵本の読み聞かせ活動のためのボランティア養成講座を実施し、子ども読書推進の担い手を育成するとともに、ボランティア相互の連携を促進するため、ボランティアネットワーク会員が自主的に行う研修会に職員を講師として派遣する等の支援を行いました。

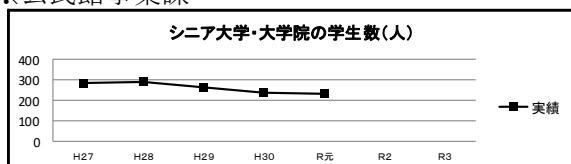
※図書館



2 指導者の育成支援に向けた取組の充実

- ・社会教育課では、子育て中の保護者が気軽に子育ての悩みや不安を話し、交流できるようサポートするための人材として認定を受けた「家庭教育ナビゲーター」を対象に、スキルアップ研修を開催しました。
- ・公民館のシニア大学では、学生・院生や卒業生の自主活動団体「シニアの会」により、ボランティア活動や地域貢献活動が継続的に行われており、学生数は減少傾向にあるものの、新たなカリキュラムの導入によって、同大学の開設目的を理解し、学習成果をまちづくりの活動につなげようとする学生の意欲は増しつつあります。

※公民館事業課



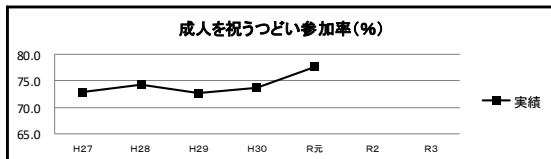
【基本施策3-2 家庭、地域、学校の連携の推進】

主な取組3-2-1 家庭、地域、学校の連携による青少年などの活動を支援する取組の充実

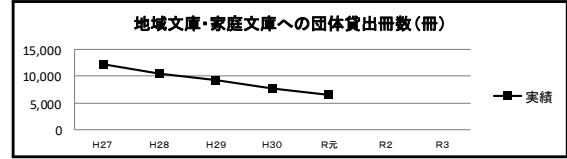
1 地域における青少年の学習活動の充実

- ・社会教育課では、新成人を中心とした実行委員会との企画・主催により「成人を祝うつどい」を開催し、新成人たちの門出を祝うとともに、今後社会で力強く生きていくよう激励する場を設けました。
- ・公民館では、地域の学校や保育所、関係団体・機関と連携を図りながら、幼児・小学生と百寿大学生との世代間交流、創作活動、体験学習等の講座や子ども食堂の取組支援などを実施しました。
- ・図書館では、地域で活動する地域文庫や家庭文庫を支援するため、図書の団体貸出や配本を実施し、地域や家庭における子どもの読書活動を推進しました。

※社会教育課



※中央図書館



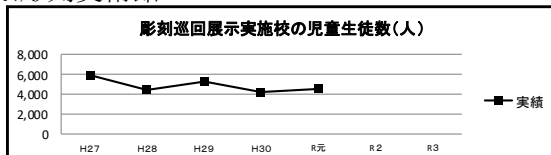
2 子どもたちを中心とした交流による学び合いの場の提供

- ・公民館では、幼児・小学生と高齢者による世代間交流事業を実施し、子どもたちにとっては昔遊びなどを通じた伝統文化に触れる機会になるとともに、高齢者にとっては自らの知識や経験を伝える場となっています。

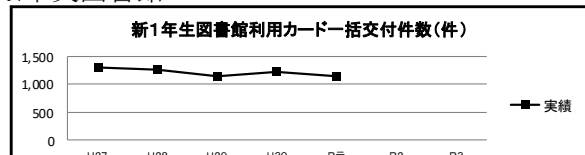
3 家庭、地域、学校との連携を更に深める取組の充実

- ・社会教育課では、親や保護者の自主的な学習活動に対し、これを支援する補助金を交付したほか、地域学校交流活動を目的とした学校開放施設を利用して、地域住民の自主的な活動の場を提供したことにより、子どもたちに伝統文化の指導などが行われました。
- ・公民館では、学校や地域の関係団体と共催・連携・協力し、世代間交流事業や子育てサロン、子ども向け外国語講座等の定期的な開設など、幅広い世代に多様な学習機会を提供することができました。
- ・彫刻美術館では、子どもたちや保護者、地域住民が身近な学校で彫刻を鑑賞することができる彫刻巡回展示を実施しました。また、地域の教育機関等との連携・協力により、小中学校において出前授業を実施した結果、授業後に彫刻美術館を訪れる参加者もいるなど、子どもたちが彫刻に興味を持つ機会を提供することができました。
- ・図書館では、市内の小中学校や絵本の読み聞かせボランティアと連携し、新小学1年生への図書カードの一括交付、学校図書館関係者への研修、図書館における総合学習や職場体験等の受入れ、学校での絵本の読み聞かせなどを行いました。
- ・科学館では、学校と連携し、プラネタリウムを活用した授業を行いました。

※彫刻美術館



※中央図書館



今後の課題と改善に向けた方向性

<3-1-1 市民が主体となって学習成果を還元できる環境の整備>

○ 各施設におけるボランティアについては、高齢化等の社会の変化の中で参加人数も多くが横ばい又は減少傾向にあることから、各ボランティアの活動を支援するために、その活動内容や特色を多くの市民に知ってもらう取組を更に行い、活動に参加する市民を増やしていく必要があります。このため、各ボランティアの活動を公民館の百寿大学で周知し、参加につなげるなど、社会教育部内でも連携を図っていきます。

また、各施設では、ボランティアの活動を単なる施設の運営支援ではなく、ボランティアの知識・経験・学習成果を発揮する場として捉え、取組を進めていきます。

<3-1-2 地域社会を担う団体や人材の育成支援>

○ 社会教育課で行っている生涯学習フェアは、多くの団体の参加がフェア自体の魅力向上につながるため、団体が参加しやすい内容となるよう、参加者アンケート等をもとに、開催内容について更に検討を進めていきます。また、家庭教育ナビゲーターが活躍できる場を発掘・提供し、自主的な活動につながっていくよう働きかけます。

○ 公民館では、幅広い世代に多様な学習機会を提供するため、様々な分野で独自の活動を行う社会教育関係団体との連携を強化し、定期的及び時宜を得た共催事業の展開を図っていきます。

○ シニア大学では、現行の6年制を見直し、令和2年度入学生から4年制とすることで、「基礎」、「発展」、「実践」の3課程を全員が履修できるようになります。また卒業後に自主的なまちづくりの活動に結びつくよう、実践の場に関する情報を提供するとともに、今後は活動分野に関する資格取得などの基礎講座やコミュニケーション能力を高める講座など、新たなカリキュラムについても充実を図ります。

○ 図書館では、ボランティアの人材育成やスキルアップのため、養成講座やボランティアのステップアップにつながる学習機会を継続的に提供するとともに、ボランティアの学習ニーズに沿った研修内容を検討していきます。

<3-2-1 家庭、地域、学校の連携による青少年などの活動を支援する取組の充実>

○ 社会教育課では、成人を祝うつどいについて、令和4年4月の成年年齢の引き下げを見据えて、その在り方を検討していきます。また、地域学校交流事業について、利用団体の構成員の高齢化が進んでいることから、新たな活動団体の掘り起こしのため、周知方法を検討していきます。

○ 彫刻美術館の巡回展示及び出前授業は、参加した学校などから高評価を得ていることから、今後も関係団体と連携しながら実施していきます。また、多くの学校が巡回展示を活用できるよう、必要な予算等の確保に努めていきます。

○ 公民館では、核家族化や少子高齢化が進み、異世代間の交流が希薄化していることや子育てを支援する取組の重要性が増していることから、関係団体との連携を強化して、世代間交流や子育てサロンなどの家庭教育や青少年教育に関する事業を実施していきます。

○ 図書館では、地域文庫や家庭文庫を支援するため、団体貸出の利便性を高めるための制度の見直しを引き続き進めるとともに、制度の周知を図っていきます。

また、子どもが読書に親しむ環境を整備するため、今後も学校図書館関係者や絵本の読み聞かせボランティアと職員が定期的に打合せを行うなど、情報共有や人的な交流を深めていきます。

○ 科学館では、減少傾向にある学校授業での利用回復に向けて、授業に活用しやすいプラネタリウムプログラムの提供や、専門職員を派遣するアウトリーチ的な事業の拡充を図ります。

社会教育

基本目標 4 市民の心を豊かにする文化芸術活動の充実

【成果目標 4】

人々が気軽に文化芸術に触れられる取組を進めるとともに、団体等への支援や関連施設を更に活用することにより、文化芸術の振興を図る。

成果指標の現状						
成果指標 1			目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
文化芸術に関する事業の入場者数		文化会館	3,113人	3,215人	達成	—
		クリスタルホール	3,215人	2,183人	未達成	◀
		公民館事業課	19,595人	24,160人	達成	—
		中央図書館	1,669人	3,217人	達成	—
文化会館		クリスタルホール				
<p>自主文化事業への参加者数 (人)</p>		<p>クリスタルホール自主文化事業の入場者数 (人)</p>				
公民館事業課		中央図書館				
<p>公民館まつり、木楽輪夢コンサートの参加者数及び木楽輪グランドピアノ開放利用者数 (人)</p>		<p>図書館まつりの参加者数 (人)</p>				
成果指標 2			目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
自主文化事業への参加者の満足度		文化会館	94.3%	99.5%	達成	—
		クリスタルホール	85.7%	90.0%	達成	—
文化会館		クリスタルホール				
<p>自主文化事業参加者へのアンケート調査の結果 (とても良かった・良かった) (%)</p>		<p>自主文化事業参加者へのアンケート調査の結果 (とても良かった) (%)</p>				
成果指標 3			目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
文化芸術活動に係る補助金の新規交付団体数		文化振興課	4団体	4団体	達成	—
<p>文化芸術活動に係る補助金の新規交付団体数 (団体)</p>						
成果指標 4			目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
文化芸術活動に係る成果発表の場を活用する団体数		クリスタルホール	7団体	中止	未達成	◀
<p>市民発表コンサート「ウィンターコンサート」の出演団体数 (団体)</p>		※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止したが、9団体が参加を予定していた。				

【基本施策 4-1 文化芸術活動に関わりを持つ機会の充実と独自性ある取組の充実】

主な取組 4-1-1 文化芸術に親しむ機会の充実

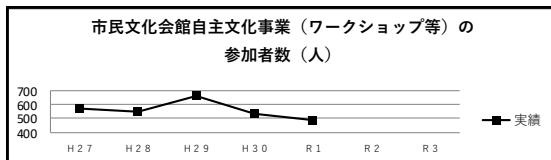
1 文化芸術に接する機会の充実

- ・文学資料館では、市民との協働により各種企画展を実施し、広く地域ゆかりの文学を紹介していますが、特に生涯学習フェアのスタンプラリーなど、他のイベントと同時開催で企画展等を行うことにより、新規の入館者が増加するとともに、文学資料館の知名度を向上することができました。
- ・彫刻美術館では、本館とステーションギャラリーにおける常設展及び企画展を実施したほか、本館では、ワークショップ等の開催により直接彫刻家と関われる場を設け、ステーションギャラリーでは、織田コレクションや大学生作品展を開催するなど、広く文化芸術の発信拠点として活用を図りました。
- ・文化会館やクリスタルホールなどの鑑賞型の自主文化事業では、幅広い年齢層の市民に、歌舞伎等の舞台や音楽芸術に接する機会を提供しました。来場者アンケートでは高い満足度が示されており、市民の文化芸術に親しむ機会の充実を図ることができました。
- ・図書館のミニギャラリーでは、市内又は近隣市町村で活躍する様々なジャンルの文化芸術活動団体・個人の発表の機会を提供するとともに、来館者に対して文化芸術に接する機会を提供できました。

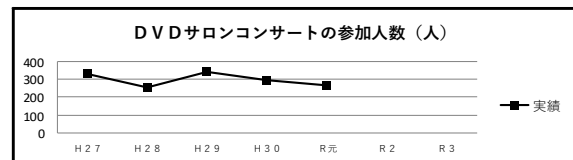
2 文化芸術への関心を高める取組の充実

- ・文化会館やクリスタルホールでは、子どもから大人まで幅広い年代に応じた様々なワークショップ等を開催しました。クリスタルホールでは小中学生による「子ども音楽プロジェクト」の参加者と共に、普段鑑賞機会の少ない乳幼児と保護者向けの公演を行うなど、音楽芸術への関心を高めることができました。
- ・彫刻美術館では、中原悌二郎賞受賞作家によるギャラリートークや、こども彫刻教室などを実施し、彫刻についての理解を深め、美術全般への関心を高める機会を提供しました。

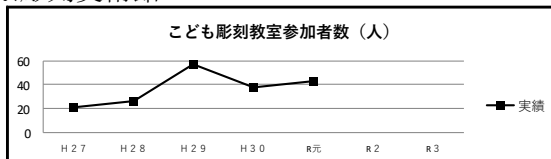
※文化会館



※クリスタルホール



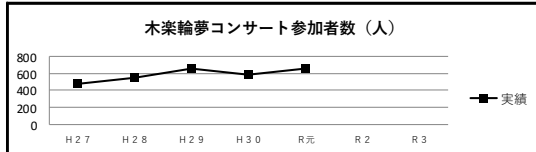
※彫刻美術館



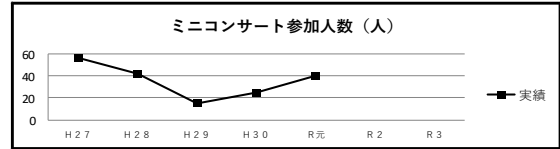
3 関連施設の機能を生かした文化芸術活動の推進

- ・彫刻美術館のステーションギャラリーでは、織田コレクションの展示など彫刻にとらわれない文化芸術の発信拠点として活用し、常磐館の中央図書館キッズルームでは、図書館内とは一味違う雰囲気の中で、子ども向けミニコンサートなどを開催しました。
- ・神楽公民館木楽輪では、グランドピアノの開放事業やアマチュア演奏家の発表機会となる夢コンサートの開催など、市民の文化芸術活動の場として着実に活動機会の提供とその利活用が図られています。

※公民館事業課



※中央図書館



主な取組 4-1-2 文化芸術活動への支援

1 文化芸術に関わる団体への支援や人材の育成

- ・文化芸術事業補助金は、社会教育活動補助金との統合を行い、社会教育・文化芸術事業補助金として、市民にとってより使いやすい制度としました。同補助金では、文化芸術団体が実施するイベントや文化芸術教育関係の全国大会出場等の経費を一部助成しました。
- ・平成30年8月に上川倉庫蔵囲夢内に開設した市民ギャラリーでは、絵画や書道、写真など、市民等の様々な文化芸術活動の成果発表の場を提供することができました。
- ・文化会館では、ホール使用料等の減免制度の周知や高校生のための演劇講習会の開催、利用団体の舞台使用等に係る指導・助言を行いました。
- ・クリスタルホールでは、音楽堂コンサートボランティアにより26公演で延べ288人がコンサートの運営支援を行いました。
- ・このほか、市民の様々な活動成果の発表の機会として、木楽輪夢コンサート、中央図書館ミニギャラリーを実施し、アマチュア演奏家や芸術家など多くの市民に活用されました。

2 関係団体等と連携した文化芸術活動の推進

- ・井上靖記念館では、井上靖記念文化財団からの資料提供協力を受け、充実した展示を開催できたほか、文学資料館では、文学資料友の会と協働で旭川ゆかりの文学者・文学作品に関する各種資料の収集・整理を行い、各種企画展や講座、読書会を開催しました。
- ・クリスタルホールでは、旭川ゆかりの演奏家と企画段階から協働で実施する制作型委託公演として、「金山聡 フルートの贈りもの」を開催し、コンサートのほかにも、小学校でのアウトリーチコンサートや、フルートのワークショップ、コンサートスタッフの仕事を体験する「こどもレセプション」の参加を企画するなど、工夫を凝らした公演とすることができました。
- ・彫刻美術館では、市民各層と協働した旭川彫刻フェスタ実行委員会により彫刻制作のワークショップを開催したほか、小中学校への彫刻巡回展示では、教員に向けて鑑賞の仕方や今後の授業への活用方法を知ってもらうなど、彫刻だけでなく美術全般への関心が高まる機会を提供しました。
- ・公民館では、生涯学習活動団体で構成する実行委員会等による公民館まつりや文化祭を開催し、各団体の活動成果の発表の場とすることができました。
- ・博物館では、地元の大学や旭川兵村記念館、川村カ子トアイヌ記念館と連携し、専門分野を学ぶ講座の開催や、学校等団体向けの特別講座を開催しました。また、北海道大学の研究機関や旭川龍谷高校などと連携し、アイヌ史・アイヌ文化に係る共同研究を実施しました。

今後の課題と改善に向けた方向性

< 4-1-1 文化芸術に親しむ機会の充実 >

- 文化会館の自主文化事業については、収支の改善のために補助制度の活用等も視野に入れ検討を行い、継続した取組となるよう事業構築を図るとともに、引き続き、事業の選考や周知の方法を検討し、多くの市民が優れた舞台芸術に低廉な価格で触れることができる機会を提供していきます。ワークショップ等の事業については、施設運營業務の受託者との協働等により機会の充実を図ります。
- クリスタルホールの自主文化事業では、幅広い年齢層を対象にした多様な分野の公演・講座や、小中学生と共に準備を進める公演などを企画しましたが、今後もアンケートなどから参加者のニーズを把握し、更に事業内容や周知方法等を充実させることにより、多くの市民が参加できるよう工夫していきます。
- 彫刻美術館の講座やワークショップは、講師の意見を反映しながら工夫を凝らして実施していますが、一層多くの市民に参加してもらうため、今後も講師や関係機関と連携をしながら、適切な事業広報を行っていきます。
- 木楽輪での夢コンサートは、出演希望者・観覧者ともに多く、参加を断らざるを得ないケースが発生しているものの、会場の広さや安全管理面等から、開催回数や参加定員を増やすことは困難な状況ですが、夢コンサート及びグランドピアノ開放を継続して実施し、アマチュア演奏家の活動の場と市民が気軽に音楽や文化・芸術に触れることができる環境の充実を図ります。
- 図書館では、ミニギャラリーやキッズルームを多くの市民に活用してもらうため、関係団体や市の他部局、文化団体等への情報発信をしていきます。

< 4-1-2 文化芸術活動への支援 >

- 社会教育活動補助金と文化芸術事業補助金を統合した「社会教育・文化芸術事業補助金」については、社会教育課と文化振興課が連携し、制度の周知を行っていくとともに、団体の利用状況等の検証を行いながら運用を進めていきます。
- 市民ギャラリーについては、マスメディアなどの利用による周知強化やアンケート調査の実施による利便性の向上により、利用率や来場者数の増加を図ります。
- 文化会館では、減免制度の一層の周知により、公平・公明性を確保しながら団体の負担軽減を図るとともに、舞台に関する指導や助言を継続できるよう、人材の育成・確保に努め、ワークショップ等の機会提供や対象者の拡大・絞り込みなどの事業構築を検討していきます。
- クリスタルホールのコンサートボランティアについては、主催者からの活動要望が多いものの、登録者は高齢化・減少傾向にあるため、活動を広く周知して新規登録者を確保するとともに、活動の在り方についての検討を進めていきます。
- クリスタルホールの制作型委託公演及び「子ども音楽プロジェクト」公演については、市民参加による音楽芸術の発展や地域人材の発掘、市民の企画力や公演技術を高める機会となっており、引き続き事業周知や集客に努め、事業効果を高める取組を進めていきます。
- 旭川彫刻フェスタや彫刻巡回展示出前授業は、今後も関係団体と連携を取りながら、彫刻を身近なものと感じられる取組を継続的に実施していきます。
- 公民館では、公民館まつり等を運営する生涯学習活動団体の高齢化が進んでいるため、新規会員獲得に向けた取組も必要となっており、引き続き、学習成果の発表の場の確保や各団体が連携できる機会の提供を継続していきます。
- 図書館では、ボランティアと連携・協力して、キッズルームの特性を生かした事業に取り組むとともに、ミニギャラリーによる発表機会を提供していくため、市の他部局や文化団体に対して積極的に情報発信を行っていきます。
- 博物館の専門分野を学ぶ講座等では、他の研究機関等との議論を深めながら、高度な専門性と市民にとっての親しみやすさを両立し、市民が理解しやすい内容となるよう工夫を重ねるとともに、より関心を持ってもらえるような広報活動を行っていきます。

社会教育 基本目標 5 郷土文化の保存・活用と郷土愛の育成

【成果目標 5】

アイヌ文化をはじめ地域に根付いた文化、ゆかりの文化財等の魅力を発信しながら、次代へ引き継ぐとともに、郷土愛を育む。

成果指標の現状					
成果指標 1		目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
郷土の文化や歴史に関する保存資料数	中央図書館	70,700点	70,724点	達成	—
	博物館	2,388点	2,525点	達成	—
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>中央図書館</p> <p>中央図書館郷土資料の所蔵点数 (点)</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>博物館</p> <p>民族資料整理に伴い出版する目録への掲載点数 (点)</p> </div> </div>					
成果指標 2		目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
郷土の文化を知る取組への参加者数	彫刻美術館	1,239人	804人	未達成	➡
	博物館	1,586人	939人	未達成	➡
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>彫刻美術館</p> <p>彫刻巡回展示出前授業参加児童生徒数 (人)</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>博物館</p> <p>博物館講座等教育普及事業 (企画展・アイヌ文化関連事業を除く)の参加者数 (人)</p> </div> </div>					
成果指標 3		目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
アイヌ文化に関する事業への参加者数 ※平成29年度は、台風でアイヌ文化ふれあいまつりが中止となったため、アイヌ文化に親しむ日のみの参加者数	博物館	2,978人	2,895人	未達成	➡
<div style="text-align: center;"> <p>アイヌ文化ふれあいまつり及びアイヌ文化に親しむ日の参加者数 (人)</p> </div>					
成果指標 4		目標値 (R元)	実績値 (R元)	達成状況	H30実績値との比較
アイヌ文化をはじめ地域に根付いた文化に関する講座等への参加者の満足度	博物館	81.1%	85.6%	達成	—
<div style="text-align: center;"> <p>教育普及事業参加者に対するアンケート調査の結果 (満足・まあまあ良いの割合) (%)</p> </div>					

【基本施策5-1 郷土の文化の保存・活用と郷土愛の育成】

主な取組5-1-1 郷土の文化や歴史的資料の適切な保存と有効活用

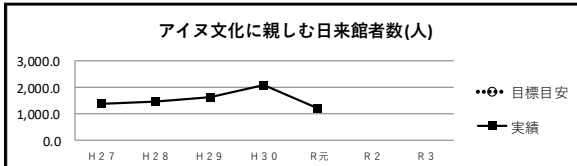
1 文化財等の適切な保存と継承

- 文化振興課では、伝統芸能の保存・伝承のため旭川郷土芸能保存連合会へ運営費の助成を行ったほか、優佳良織の技術を伝承し後世へ継承するため、優佳良織技術者の育成活動への助成を行いました。
- 旧旭川借行社については、貴重な重要文化財を保存し後世へ継承するため、彫刻美術館として適正に維持管理を行うとともに、棟札や鬼瓦等を展示し、その魅力について紹介しました。またその他の文化財についても、適正に維持管理を行い、保存に努めました。

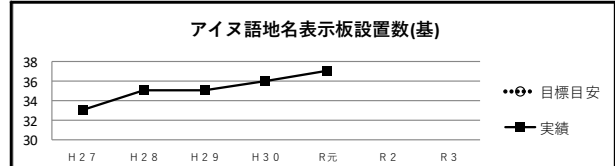
2 貴重な文化財等を活用した郷土の歴史を後世に伝える取組の推進

- 博物館では、アイヌ文化ふれあいまつりやアイヌ文化に親しむ日を開催したほか、市内の10の小中学校でアイヌ古式舞踊を鑑賞・体験する機会を設けるなど、アイヌ文化の保存と継承に努めました。また、郷土の身近な歴史を伝える取組として、アイヌ語地名表示板の設置に継続して取り組みました。

※博物館



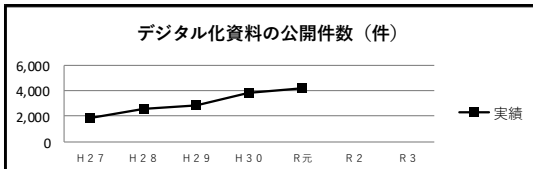
※博物館



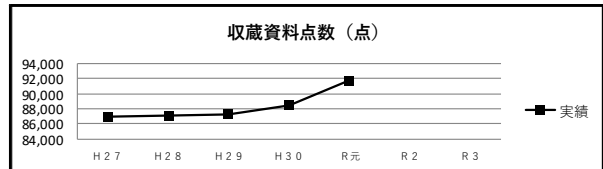
3 歴史的資料の収集・保存と整理

- 図書館や博物館では、旭川地域や上川地方に関連する歴史・文化に関する資料の収集・整理・保存を進めています。特に、図書館所蔵写真資料については、長期に保存できるよう体系的に整理し、デジタル化を進めています。

※中央図書館



※博物館

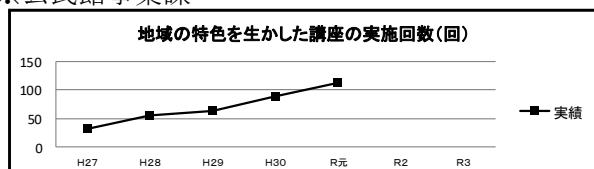


主な取組 5-1-2 郷土愛を育むための取組の推進

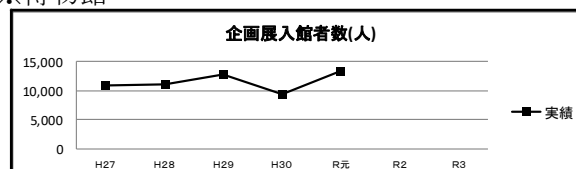
1 郷土の文化に接する機会や、郷土を再発見し愛着や誇りを高める取組の充実

- ・社会教育課では、上川中部地域の「ジオパーク」への認定を目指し、民間の関係団体や大学と連携しながら、地域の地質的な成り立ちを知るきっかけとなるフォーラムや出前講座、地域の見どころを紹介する現地観察会や展示会などを延べ60回にわたり行うなど、郷土の魅力を伝える取組を積極的に行いました。
- ・井上靖記念館では、読み聞かせや語りを通じて、郷土を代表する作家である井上靖氏の作品に子どもが親しむ機会の充実を図ったほか、各公民館では、地域資源を生かした講座の実施などを通じ、地域への愛着や関心を高める取組を進めています。
- ・彫刻美術館では、所蔵する彫刻作品を身近に鑑賞できる彫刻巡回展示を市内小中学校等で実施したほか、市民を対象に彫刻に親しむ機会として旭川彫刻散歩を実施したことなどにより、「彫刻のまち旭川」に対する意識の高揚を図ることができました。
- ・公民館や図書館、博物館では、収集した郷土の資料を活用した企画展の実施や、郷土学習の支援等の活動を通じて、郷土の歴史や文化に接する機会を提供し、その魅力を再発見する取組を進めています。特に博物館で開催した3回の企画展は、近年では最も多くの入館者数を記録しました。

※公民館事業課



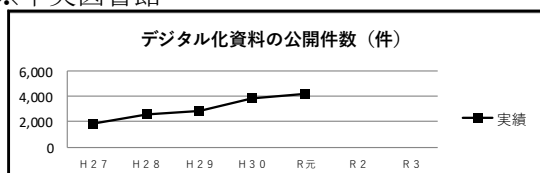
※博物館



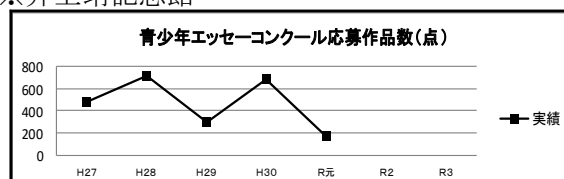
2 郷土の文化に関する情報発信の充実と理解の促進

- ・井上靖記念館では、中学生・高校生を対象とした青少年エッセーコンクールを開催し、青少年の文学への関心や資質を高める一助となりました。
- ・図書館では、郷土資料を長期に保存・活用するためのデジタル化を進めており、北海道立図書館のデジタルアーカイブ公開システムと連携しながら、デジタル化した資料のインターネット公開を進め、市民の利便性の向上を目指しています。
- ・博物館では、アイヌ文化に関連する各種事業の実施や、旭川駅構内のアイヌ文化情報コーナー「ル・シロシ」の運営を通じ、アイヌ文化への理解を深める取組を進めました。

※中央図書館



※井上靖記念館



今後の課題と改善に向けた方向性

< 5-1-1 郷土の文化や歴史的資料の適切な保存と有効活用 >

- 都市開発の進展等により消滅の危機に晒されている建造物や、後継者不足により伝承が困難となっている郷土芸能等の問題に関しては、容易に解決できるものではありませんが、市民に文化財に関する理解を深めてもらい、保存・継承を進めていくためにも、広く紹介・活用する機会を今後とも増やしていきます。特に優佳良織については、本市を代表する貴重な工芸品であり、その技術が継承されるよう、積極的な支援を行っていきます。
- 彫刻美術館では、文化庁等からの助言・指導も求めながら重要文化財建造物としての適切な維持管理に努め、その魅力について発信していきます。
- 図書館が所蔵する写真資料のデジタル化は、人的・経費的な負担も大きいですが、郷土の歴史を保存する重要な取組であることから、継続して取り組むとともに、こうした郷土資料の企画展示など、その活用方法についても検討します。
- アイヌ文化の教育・普及については、他の集客力のあるイベントと併せて開催するなど、効果的な事業の促進を図っていきます。また、アイヌ語地名表示板については、設置候補地が限られてきているため、今後の設置方針等について、引き続き検討していきます。

< 5-1-2 郷土愛を育むための取組の推進 >

- ジオパーク構想の推進について、市民の理解をより深めるためには、地質学的な要素だけでなく郷土文化との関連付けも必要であることから、地域の魅力ある文化財群を活用し、それらのコンテンツ化を進めていくとともに、今後はガイドやサポーター等の人材育成等にも取り組んでいきます。
- 井上靖記念館で実施している、青少年エッセーコンクールは、テーマ設定により応募数が大きく増減することから、今後はより身近で親しみやすいテーマを設定し、効果的な広報を行うことで、応募数の増加を図り、郷土への愛着や文学への関心を高める機会としていきます。
- 彫刻の巡回展示や旭川彫刻散歩については、参加者に好評であることから、今後も周知を図りながら、彫刻のまちづくりに対する市民の意識の向上につながる継続的な事業を展開していきます。
- 公民館では、新しい題材や講師を発掘し、参加者のニーズの把握に努めながら、地域の特性を生かした事業を継続して実施していきます。
- 図書館では、昭和39年から刊行してきた旭川叢書が、平成30年度より予算の削減により刊行停止となりましたが、郷土の歴史を残す事業として継続する必要があることから、刊行再開に向けて取り組んでいきます。
- 博物館では、アイヌ文化の保存・伝承に係る各種事業が定着してきていることから、アイヌ文化情報コーナー「ル・シロシ」の運営と合わせて、引き続き、効果的な情報発信を進めていきます。